

1. 基本的な考え方

平成24年から概ね10年先を見据えた長期の戦略計画「みえ県民カビジョン」を着実に推進するため、令和2年度から5年度までの中期の戦略計画として「みえ県民カビジョン・第三次行動計画」を策定。

(1) めざす姿

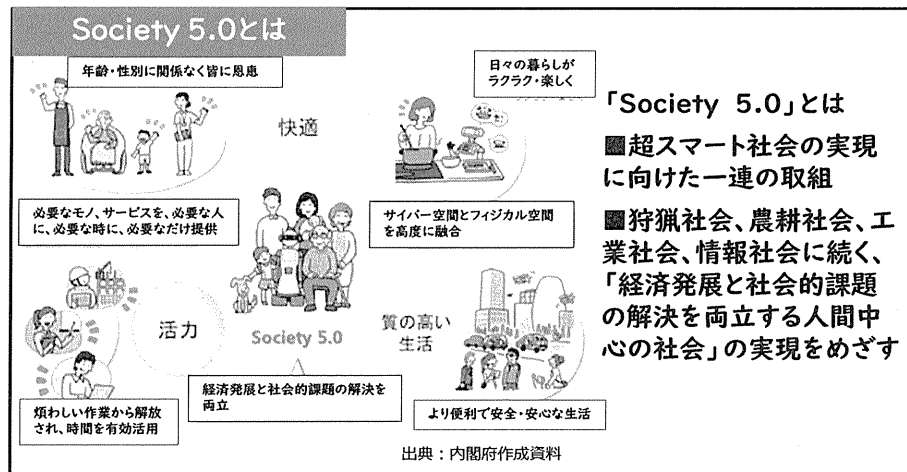
(ビジョン・基本理念)「県民力でめざす『幸福実感日本一』の三重」

共感性を高く持ち、他人の痛みを感じ、いたわり、助け合う、そして、文化や価値観の違う人に対しても理解し、包み込む「多様性」「包容力」という、先人から継承されてきた県民性から捉えなおし

(第三次)「三重県らしい、多様で、包容力ある持続可能な社会」

(2) 施策展開の考え方

「協創」の視点に加え、「Society 5.0」および「SDGs」の視点を取り入れ、施策展開



経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会の実現に寄与

SDGs(持続可能な開発目標)の17のゴールと169のターゲットの実現に寄与

三重県らしい、多様で、包容力ある持続可能な社会

- 将来に対して不安を感じることなく、安心して暮らすことができる社会
- 自分に合った暮らし方・自分らしい生き方を選択できる社会
- ライフステージに応じて多様な働き方ができる社会
- より高い目標に向けてチャレンジができ、失敗しても何度でも挑戦できる社会
- 家族の絆や地域のつながりを感じ、支え合って暮らすことができる社会
- 美しい自然や多彩な文化などの魅力あふれる地域に、愛着や誇りを感じながら暮らすことができる社会
- 活力のあるさまざまな産業が発展する中で、めざす仕事に就き、いきいきと働くことができる社会

Society 5.0を支える技術

協創

経済・社会・環境の3つの側面からの統合的な取組

Society 5.0の視点

- 「イノベーション」による新たな価値の創出と課題解決
- 多様なニーズへのきめ細かな対応による生活の質の向上
- いつでもどこでも「つながる」ことによる機会の創出
- Society 5.0を支える人材・基盤づくり

SDGsの視点

- 誰一人取り残さない(包摂性)
- 全てのステークホルダーが役割を担う(参画型)
- 経済・社会・環境の3つの側面で統合的に取り組む(統合性)

【参考】「みえ県民カビジョン」の概要

(1) 基本理念

県民力でめざす「幸福実感日本一」の三重

自立し、行動する県民(アクティブ・シチズン)へ

- ◆「アクティブ・シチズン」=自立し、行動する県民
- ◆「自立し、行動する」とは、自らの判断と責任のもとで、公共心を持って社会の一員として生きていくこと。また、地域社会や企業などの一員として、進んで責任を果たしていくこと。

県民力による「協創」の三重づくり

- ◆「公」を担う主体として自立し、行動することで、協働による成果を生み出し、新しいものを創造(「協創」)していく。

新しい豊かさモデル～「幸福実感日本一」の三重をめざして

- ◆三重づくりに、自立し行動する主体として、自分自身の人生をデザインし、それぞれの立場で参画すること、そのこと自体で幸福を実感することができる。
- ◆新しい豊かさとは、自らの力を発揮する機会を見だし、主体的に社会づくりに関わることで、すなわち、アクティブ・シチズンとして活動することによって得られる。このような生き方こそが、時代の分水嶺の先の新しいモデル(「新しい豊かさモデル」)になる。

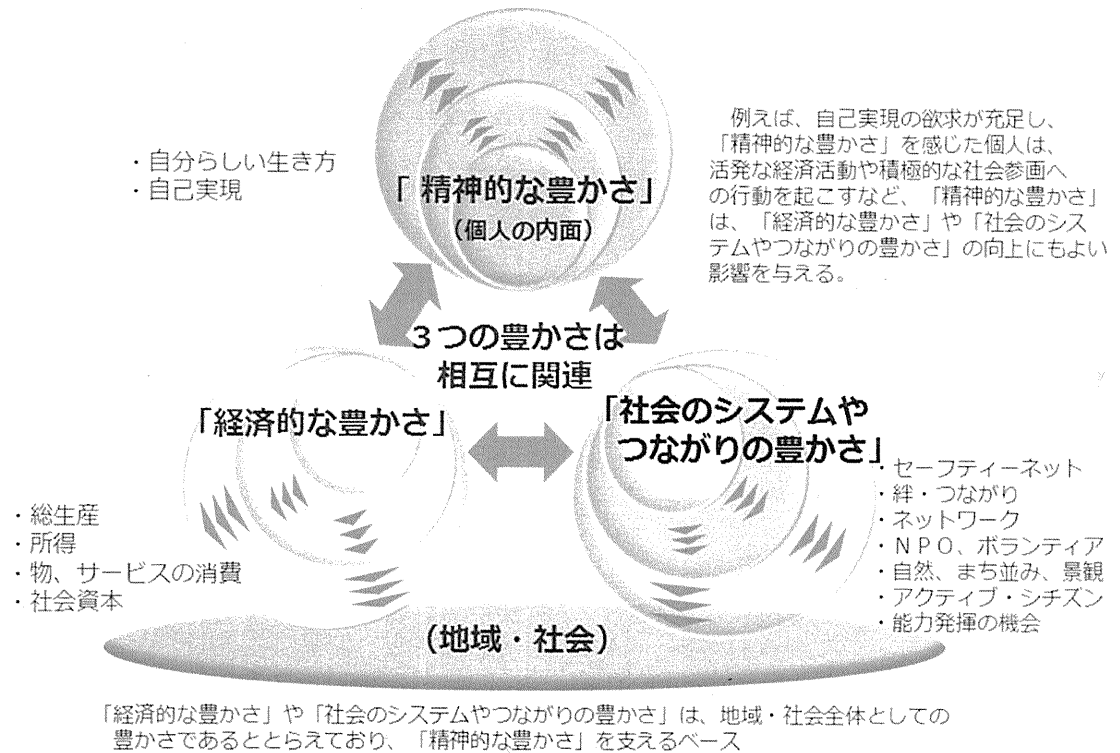
(2) 「新しい豊かさ」を享受できる三重づくり

第二次行動計画において、「新しい豊かさ」を再定義
5つの視点で施策を見直し

「新しい豊かさ」とは

「新しい豊かさ」は、「経済的な豊かさ」、「社会のシステムやつながりの豊かさ」、「精神的な豊かさ」の3つの豊かさ全てを高めていくことで、享受できる豊かさ

「精神的な豊かさ」は、個人のレベルの豊かさであり、幸福実感に密接に関わるもの



「新しい豊かさ」の視点

- 視点1 社会全体の安全・安心のシステムの充実
- 視点2 価値観の多様化への対応
- 視点3 自己実現の後押し(個人の特性や能力の発揮のための環境づくり)
- 視点4 社会関係資本(人とのつながり・ネットワークなど)の充実・再生
- 視点5 地域の魅力の向上(多様な資源の活用や磨き上げ、情報発信)

みえ県民カビジョン・第三次行動計画(案)について

2. 第2期三重県まち・ひと・しごと創生総合戦略

(1) 第1期三重県まち・ひと・しごと創生総合戦略の振り返り

基本目標

● 県の合計特殊出生率

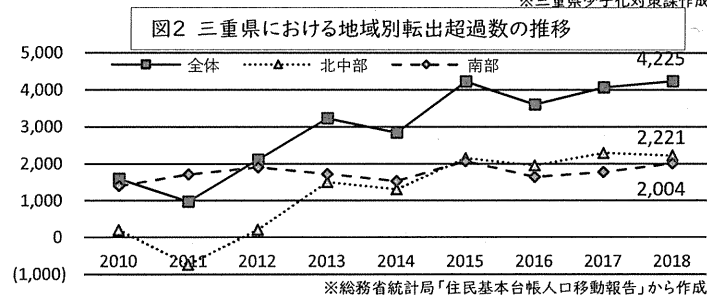
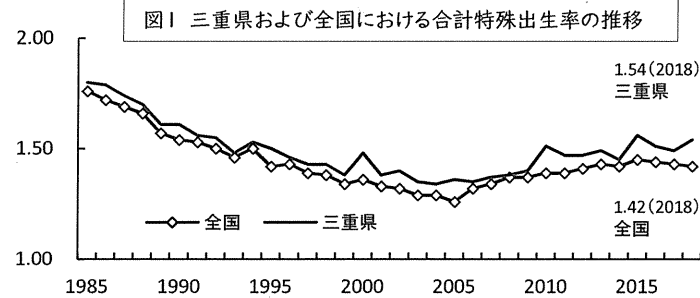
平成30(2018)年は3年ぶりに増加に転じ(図1)、出生数の減少幅も前年より大幅に抑制

● 地域社会の見守りの中で、子どもが元気に育っていると感じる県民の割合

平成27(2015)年度以降減少傾向にあり、目標値とかい離。

● 県外への転出超過数

平成30(2018)年は、転入者が3年ぶりに増加に転じ、若者の転出超過も若干改善したが、2年連続で4,000人を超えるなど厳しい状況(図2)。

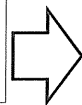


(2) 第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略の取組方向

地域に「しごと」をつくり、「しごと」が「ひと」を呼び、「まち」を活性化し、誰もが安心して生活を営むことができる社会環境をつくり出していくことが重要であるとの考えから、第1期の自然減、社会減の2つの対策を、第2期では4つの対策に再編して一体的に取り組む。

第1期

- 自然減対策
- 社会減対策



第2期

- 活力ある働く場づくり
- 未来を拓くひとづくり
- 希望がかなう少子化対策
- 魅力あふれる地域づくり

● 活力ある働く場づくり

「地域の強み」を生かし、活力ある「働く場」を創出する三重

- Society 5.0時代につながる、若者にとって魅力ある「働く場」の増。
- 多様な産業で、活発に活動できる環境づくりを進め、新たな「働く場」の創出。
- 誰もが働き続けられる職場環境づくりを進め、活力ある「働く場」の増。また、生産性の向上、人材の確保・定着につながる働き方改革の推進。

数値目標

- 県内総生産(実質)
- 県内就業者数

● 未来を拓くひとづくり

若い世代が未来に向けて挑戦し、自らの可能性を広げ、地域で活躍できる三重

- 高等教育機関の魅力向上、学びの選択肢の拡大。
- 学びたいときに学べる環境づくり、地域で活躍し続けられる人材の育成。
- 子どもの郷土への愛着、誇り、地域の発展に貢献しようとする思いを育む。
- 個性や多様性が尊重され、いきいきと働き続けられる環境づくり。

数値目標

- 県内外の高等教育機関卒業生が県内に就職した割合
- 若者の定住率

● 希望がかなう少子化対策

結婚・妊娠・子育てなどの希望がかなない、全ての子どもが豊かに育つことのできる三重

- 結婚や妊娠・出産を希望する人を応援する取組。
- さまざまな主体と共に、子育て家庭を社会全体で支える環境づくり。
- 待機児童の解消など、安心して子育てができる地域づくり、仕事と育児を両立できる職場環境づくり。

数値目標

- 県の合計特殊出生率
- 地域社会の見守りの中で、子どもが元気に育っていると感じる県民の割合

● 魅力あふれる地域づくり

暮らしの豊かさや安全・安心が実感でき、ひとや地域のつながりが新たな力を生み出す三重

- 新技術を医療、介護、福祉、災害・交通事故対策等に活用した地域づくり。
- 県民一人ひとりの主体的な健康づくり、企業の健康経営に向けた取組。
- 関係人口の創出・拡大。
- 三重の魅力発信、三重の魅力づくり、認知度向上。
- 観光産業の高付加価値化等を進め、世界からの観光客の流れを創出。
- 積極的な情報発信、さまざまな立場の人、組織、地域を結びつける取組。

数値目標

- 県外への転出超過数
- 健康寿命

みえ県民カビジョン・第三次行動計画(案)について

3. 政策体系の見直し 政策展開の基本方向（3つの柱）「守る」「創る」「拓く」をもとに、15政策、58施策（2次61）を展開

I 「守る」～命と暮らしの安全・安心を実感 できるために～	II 「創る」～人と地域の夢や希望を実感 できるために～	III 「拓く」～強みを生かした経済の躍動を 実感できるために～
<p>1 防災・減災、国土強靱化 111 災害から地域を守る自助、共助の推進 112 防災・減災対策を進める体制づくり 113 災害に強い県土づくり</p> <p>2 命を守る 121 地域医療提供体制の確保 122 介護の基盤整備と人材の育成・確保 123 がん対策の推進 124 健康づくりの推進</p> <p>3 支え合いの福祉社会 131 地域福祉の推進 132 障がい者の自立と共生 133 児童虐待の防止と社会的養育の推進</p> <p>4 暮らしの安全を守る 141 犯罪に強いまちづくり 142 交通事故ゼロ、飲酒運転0（ゼロ）をめざす安全なまちづくり 143 消費生活の安全の確保 144 医薬品等の安全・安心の確保と動物愛護の推進 145 食の安全・安心の確保 146 感染症の予防と拡大防止対策の推進 147 獣害対策の推進</p> <p>5 環境を守る 151 環境への負荷が少ない持続可能な社会づくり 152 廃棄物総合対策の推進 153 豊かな自然環境の保全と活用 154 生活環境保全の確保</p>	<p>1 人権の尊重とダイバーシティ社会の推進 211 人権が尊重される社会づくり 212 あらゆる分野における女性活躍とダイバーシティの推進 213 多文化共生社会づくり</p> <p>2 学びの充実 221 子どもの未来の礎となる「確かな学力・豊かな心・健やかな身体」の育成 222 個性を生かし他者と協働して未来を創造する力の育成 223 特別支援教育の推進 224 安全で安心な学びの場づくり 225 地域との協働と信頼される学校づくり 226 地域の未来と若者の活躍に向けた高等教育機関の充実 227 文化と生涯学習の振興</p> <p>3 希望がかなう少子化対策の推進 231 県民の皆さんと進める少子化対策 232 結婚・妊娠・出産の支援 233 子育て支援と幼児教育・保育の充実</p> <p>4 三重とこわか国体・三重とこわか大会の成功とレガシーを生かしたスポーツの推進 241 競技スポーツの推進 242 地域スポーツと障がい者スポーツの推進</p> <p>5 地域の活力の向上 251 南部地域の活性化 252 東紀州地域の活性化 253 農山漁村の振興 254 移住の促進 255 市町との連携による地域活性化</p>	<p>1 持続可能なもうかる農林水産業 311 農林水産業の多様なイノベーションの促進とブランド力の向上 312 農業の振興 313 林業の振興と森林づくり 314 水産業の振興</p> <p>2 強じんて多様な産業 321 中小企業・小規模企業の振興 322 ものづくり・成長産業の振興 323 Society 5.0時代の産業の創出 324 戦略的な企業誘致の推進と県内再投資の促進</p> <p>3 世界の三重、三重から世界へ 331 世界から選ばれる三重の観光 332 三重の戦略的な営業活動 333 国際展開の推進</p> <p>4 多様な働き方が活躍できる雇用の推進 341 次代を担う若者の就労支援 342 多様な働き方の推進</p> <p>5 安心と活力を生み出す基盤 351 道路網・港湾整備の推進 352 安心を支え未来につなげる公共交通の充実 353 安全で快適な住まいまちづくり 354 水資源の確保と土地の計画的な利用</p>

みえ県民カビジョン・第三次行動計画(案)について

4. 「これからのみえづくり」に向けた高校生、大学生等意識調査結果

(1) 対象

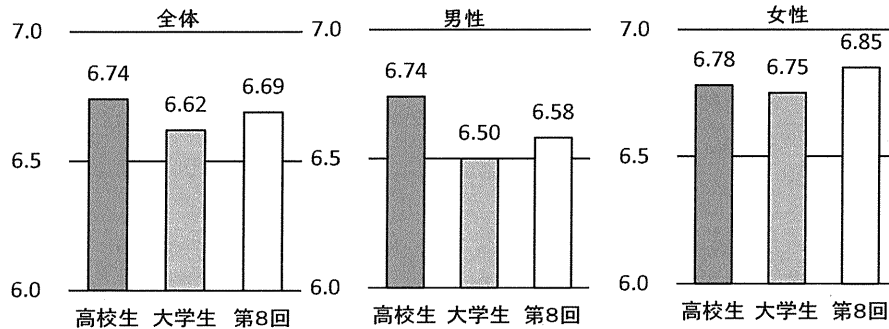
- ・県立学校および私立学校の卒業1年前の生徒(原則2クラス) 4,888人
- ・県内14高等教育機関(大学、短期大学、高等専門学校)の卒業1年前の全ての学生 4,617人

(2) 調査期間

令和元(2019)年6月~7月

(3) 概要

① 幸福感



※第8回・・・第8回みえ県民意識調査

対象: 県内在住の18歳以上の者 10,000人 調査期間: 平成31年1月~2月

② 幸福感を判断する際に重視した事項

	高校生等	大学生等	(参考)第8回意識調査
1位	友人関係 62.3%	自由な時間 58.0%	健康状況 68.2%
2位	自由な時間 55.1%	友人関係 54.7%	家族関係 65.5%
3位	家族関係 42.8%	精神的なゆとり 51.0%	家計の状況 57.8%
4位	充実した余暇 40.6%	健康状況 44.2%	精神的なゆとり 38.7%
5位	学校の人間関係 39.7%	充実した余暇 42.3%	自由な時間 35.9%

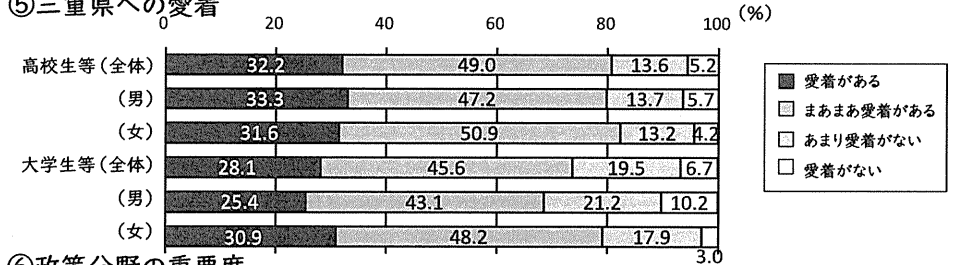
③ 幸福感を高める手立て

	高校生等	大学生等	(参考)第8回意識調査
1位	自分自身の努力 62.1%	自分自身の努力 64.5%	家族との助け合い 66.2%
2位	友人や仲間との助け合い 57.5%	友人や仲間との助け合い 61.9%	自分自身の努力 57.1%
3位	家族との助け合い 28.4%	家族との助け合い 28.8%	友人や仲間との助け合い 22.0%
4位	国、地方の政府からの支援 12.2%	国、地方の政府からの支援 7.2%	国、地方の政府からの支援 20.3%
5位	学校からの支援 6.9%	学校からの支援 5.3%	社会(住民、NPO等)の助け合い 9.3%

④ 将来の望ましい社会(どんな暮らしができる三重県が望ましいか) ※上位3つは同じ

	高校生等	大学生等	
1位	不安を感じることなく、安心して暮らすことができる	65.1%	59.8%
2位	自分に合った暮らし方・自分らしい生き方ができる	51.9%	49.9%
3位	家族の絆や地域のつながりを感じ、支えあって暮らすことができる	17.8%	18.5%

⑤ 三重県への愛着



⑥ 政策分野の重要度

高校生等		大学生等	
1位	防災・減災 46.5%	4位	公共交通 35.4%
2位	医療 43.6%	5位	介護・高齢者福祉 29.4%
3位	防犯・交通安全 39.0%	6位	結婚・妊娠・出産・子育て支援 27.6%
1位	医療 52.9%	4位	子どものための教育 34.8%
2位	防災・減災 45.1%	5位	防犯・交通安全 30.7%
3位	結婚・妊娠・出産・子育て支援 44.7%	6位	介護・高齢者福祉、雇用対策・働き方改革 28.1%